

第V部 八木山動物公園

1 沿革と施設の概要

(1) 沿革

本市の動物公園事業の歴史は古く、昭和11年4月1日に広瀬川河畔（現在の青葉区花壇）に全国で11番目に開園した「仙台市動物園」が始まりであるが、この動物園は戦災により昭和20年7月に廃止した。その後、昭和32年10月に「子供動物園」（現在の青葉区荒巻字三居沢）を復活させ、子供たちの“大きな動物園がほしい”との声に応えるため、昭和40年10月15日に現在の太白区八木山地区に「仙台市八木山動物公園」を新設した。以来、順次施設の増設を進め、昭和53年4月に爬虫類館及びゴリラ舎、昭和62年6月にレッサーパンダ舎等を新設した。

平成元年3月には、八木山動物公園の将来への展望を「仙台市八木山動物公園基本構想・基本計画策定報告書」にまとめ、平成4年度から年次改修計画に基づき順次施設の改善に着手し、平成5年10月に南入園口（現在の西門出入口付近）を新設して入園者の利便を図った。また、動物本来の生態環境を模した放飼場で動物を見せる生態展示を基本構想として、平成11年6月にはアフリカゾウ舎及びアフリカ平原放飼場を改修、平成14年7月に猛獣舎を改築し、環境教育にも利用できる施設となった。

平成19年10月には、「八木山動物公園運営方針一百万人の動物園を目指して一」を策定し、平成27年度開業予定の地下鉄東西線を見据えた魅力ある動物公園施設整備等を行うこととし、平成22年4月にビジターセンターを新設した。

また、環境教育の充実のため、平成19年10月に宮城教育大学との連携協力の覚書を締結し、野生動物を通じた環境教育プログラムの作成と実践に取り組むとともに、平成20年5月には、マダガスカル共和国のチンバザザ動植物公園と協力協定を締結し、環境教育や飼育繁殖技術の支援を行うなど、マダガスカル固有の希少動物の保護・保全活動に取り組み、平成28年度から令和元年度にかけて第2段階となる事業を実施した。

平成23年3月には、東日本大震災による被害のため休園を余儀なくされたが、迅速な応急復旧により、同年4月23日には再開園することができた。

平成24年度には、東日本大震災による社会情勢の変化や希少動物ジャイアントパンダの導入を見据えて、平成19年度に策定した「八木山動物公園運営方針」の再整備計画の見直しを行い、平成25年8月に、この運営方針の一部改定を行った。

平成27年10月15日には開園50周年を迎え、同月18日に記念式典を開催した。

平成29年4月には、八木山動物公園で初となるネーミングライツの運用を開始した。

平成29年3月に竣工した八木山動物公園再整備計画に基づくふれあい動物園整備事業では、平成29年4月に飲食物販棟を先行して供用開始した後、同年7月には「ふれあい館」を含めた施設の全面供用を開始した。

平成29年12月には「八木山動物公園運営方針」を改定し、当園の現状や課題を踏まえ、中長期的な観点から運営の方向性を定めた。

平成30年5月には国内で飼育されているアフリカゾウの繁殖に向け、秋田市大

森山動物園及び盛岡市動物公園と協定を締結し、国内初となるメスの交換をはじめとする3園連携による繁殖の取組みを進めている。

希少動物の繁殖については、多くの実績があり、平成31年2月にはクロサイの繁殖に成功し、令和元年10月にはスマトラトラの繁殖に成功した。

また、北海道大学と連携して人工授精に取り組んできたホッキョクグマについては、令和4年11月に成育には至らなかったが、2頭の繁殖に成功している。

令和3年8月には、老朽化した施設の長寿命化対策と動物園の魅力アップのための再整備を行うため、「八木山動物公園施設長寿命化再整備計画」を策定し、順次施設整備を進めている。

(2) 施設の概要

所在地	仙台市太白区八木山本町一丁目43番地
敷地面積	121,405.00 m ²
動物舎	6,424.78 m ²
放飼場	11,797.19 m ²
治療施設	513.73 m ²
ビジターセンター	1,885.57 m ²
管理施設	1,793.74 m ²
立体駐車場	4,211.94 m ²
都市計画決定	
昭和45年6月9日	宮城県告示第451号
昭和57年1月26日	宮城県告示第100号(変更)
平成17年9月30日	仙台市告示第1156号(変更)
平成24年1月13日	仙台市告示第15号(変更)

(3) 開園時間・休園日

開園時間 (3月～10月) 9:00～16:45

(11月～2月) 9:00～16:00

休園日 水曜日(ただし、水曜日が祝休日にあたる場合は、その翌日)

年末年始(12月28日～1月4日)

(4) 入園料

	一般 (高校生以上)	小・中学生	通年利用 (年間パスポート)
個人	480円	120円	1,200円
団体(30人以上)	380円	90円	

※ 未就学児は無料。有料公園施設の利用許可に係る使用料の減免に関する事務取扱要綱にて種々の減免を行っている。

2 入園者の状況

■令和4年度 八木山動物公園月別入園者数

(単位：人)

	幼児	小・中 学 生					一 般					有 料 計	無 料 計	合 計
		有 料			無 料	計	有 料			無 料	計			
		個 人	団 体	小 計			個 人	団 体	小 計					
4月	12,921	3,982	428	4,410	2,532	6,942	23,934	415	24,349	6,143	30,492	28,759	21,596	50,355
5月	17,723	4,554	1,164	5,718	3,082	8,800	32,768	2,162	34,930	5,665	40,595	40,648	26,470	67,118
6月	8,835	2,336	1,057	3,393	1,515	4,908	16,071	933	17,004	4,579	21,583	20,397	14,929	35,326
7月	6,394	2,476	288	2,764	1,524	4,288	13,835	168	14,003	3,461	17,464	16,767	11,379	28,146
8月	10,616	5,274	44	5,318	3,473	8,791	23,231	3	23,234	4,957	28,191	28,552	19,046	47,598
9月	12,516	3,229	2,491	5,720	7,775	13,495	22,183	856	23,039	5,994	29,033	28,759	26,285	55,044
10月	18,770	3,274	1,160	4,434	7,528	11,962	27,787	2,212	29,999	7,092	37,091	34,433	33,390	67,823
11月	12,012	443	435	878	5,244	6,122	18,157	363	18,520	8,873	27,393	19,398	26,129	45,527
12月	2,976	864	0	864	397	1,261	6,316	174	6,490	1,975	8,465	7,354	5,348	12,702
1月	4,808	1,393	0	1,393	738	2,131	8,930	0	8,930	2,809	11,739	10,323	8,355	18,678
2月	4,936	978	0	978	616	1,594	8,996	0	8,996	2,549	11,545	9,974	8,101	18,075
3月	13,436	4,334	103	4,437	1,768	6,205	24,439	13	24,452	5,165	29,617	28,889	20,369	49,258
計	125,943	33,137	7,170	40,307	36,192	76,499	226,647	7,299	233,946	59,262	293,208	274,253	221,397	495,650

(資料：管理課)

■令和4年度 八木山動物公園地域別団体入園者数(有料分)

(単位：件、人)

月	市 内		県 内		福 島		山 形		岩 手		そ の 他		合 計	
	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
4月	4	315	0	0	6	492	0	0	1	36	0	0	11	843
5月	14	1,173	15	1,202	8	542	3	95	1	31	4	283	45	3,326
6月	12	650	5	311	6	387	1	42	4	242	5	358	33	1,990
7月	0	0	4	232	1	33	0	0	0	0	3	191	8	456
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	47	1	47
9月	7	457	17	1,093	17	1,308	1	46	3	189	4	254	49	3,347
10月	15	1,090	17	1,420	7	568	1	36	1	38	5	220	46	3,372
11月	1	78	4	340	3	288	0	0	1	30	1	62	10	798
12月	1	89	1	85	0	0	0	0	0	0	0	0	2	174
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	116	2	116
合計	54	3,852	63	4,683	48	3,618	6	219	11	566	25	1,531	207	14,469
前年度	25	1,832	29	2,328	32	2,331	0	0	0	0	7	534	93	7,025
増減	29	2,020	34	2,355	16	1,287	6	219	11	566	18	997	114	7,444

(資料：管理課)

■八木山動物公園年度別入園者数

(単位：人)

年 度 別	入 園 者 数	備 考
令 和 元 年 度	535,680	
令 和 2 年 度	324,246	新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休園を実施
令 和 3 年 度	365,098	新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休園を実施
令 和 4 年 度	495,650	

(資料：管理課)

3 飼育動物

■八木山動物公園飼育一覧表

(令和5年4月1日現在)

綱	目	科	種類	点数	綱	目	科目	種類	点数	
哺乳綱	有袋目	1	1	14	鳥綱	カモ目	1	17	97	
	霊長目	6	11	93		ツル目	1	3	4	
	兔目	1	1	34		チドリ目	1	1	1	
	げっ歯目	3	5	58		オウム目	2	6	9	
	食肉目	7	11	31		フクロウ目	1	4	15	
	長鼻目	1	1	3		小計	10目	12	45	175
	奇蹄目	2	4	14	爬虫綱	ワニ目	1	1	1	
	偶蹄目	5	7	29		有鱗目(トカゲ目)	2	2	46	
小計	8目	26	41	276		有鱗目(ヘビ目)	3	7	25	
鳥綱	ダチョウ目	1	1	2	カメ目	6	21	55		
	ペンギン目	1	1	8	小計	4目(2亜目)	12	31	127	
	コウノトリ目	1	1	4	合計	綱目	科目	種類	点数	
	フラミンゴ目	1	3	19		3綱22目		50	117	578
	タカ目	2	8	16		(2亜目)				

■八木山動物公園飼育動物の種類及び点数の推移

	哺乳綱		鳥綱		爬虫綱		計	
	種	点	種	点	種	点	種	点
昭和40年10月31日(開園当時)	50	146	57	206	—	—	107	352
令和5年4月1日	41	276	45	175	31	127	117	578

4 八木山動物公園再整備事業

地下鉄東西線開業を見据えた魅力ある動物公園施設整備として、ビジターセンターや西門広場エントランスを整備すると共に、アフリカ園に至る通路など、園路のバリアフリー化を実施し、平成29年7月には、体験型施設「ふれあい館」の供用を開始した。

平成29年12月に「八木山動物公園運営方針」を改定し、老朽化した施設の長寿命化対策と動物園の魅力アップのための再整備を行うため、平成30年度に施設長寿命化等計画の検討に着手し、令和3年8月に施設長寿命化再整備計画を策定した。

本計画に基づき、令和4年1月よりエリアI（既存アフリカ園を活かした新アフリカ園として、大型希少動物を中心とした展示エリア）の施設整備に着手しており、今後も引き続き、事業の着実な推進を図っていく。

5 サポーター制度の推進

平成23年1月より、八木山動物公園に対して寄附を行っていただく方々を対象とした「オフィシャルサポーター」の制度をスタートさせた。

令和4年度末時点でのサポーター認定件数は392件となっており、今後も推進を図っていく。

6 自主財源の確保(ネーミングライツ)

(1) 導入趣旨

新たな収入源を確保し、施設管理運営等のための財源として有効活用するとともに、事業者の方々に企業 PR や地域貢献などの場を提供するため、施設命名権(ネーミングライツ)を導入した。

(2) 募集及び愛称

ネーミングライツでは導入趣旨に賛同し、契約料を負担いただく企業等を公募により募集している。また、条例上の名称は変更せず、愛称としている。

現在は、株式会社藤崎と契約を締結し、令和2年度より「八木山動物公園フジサキの杜」の愛称で運用を開始し、令和5年度から令和7年度まで継続となった。

7 各種事業

(1) 種の保存事業

近年、野生動物の生息環境の悪化に伴い、生物種の減少が急速に進んでいる。このような背景をもとに、動物園は希少動物の保護繁殖を図る役割を果たしていくことが強く求められている。

八木山動物公園では、昭和58年よりシジュウカラガンの羽数回復事業を推進し、平成26年には宮城県を中心に1つの個体群を維持するのに最低限必要な数1,000羽を越える1,070羽が飛来し、平成30年にはその数が約5,000羽となるなど、渡りの復活に大きな成果を残した。

また、八木山動物公園では、絶滅危惧種であるクロサイのオス・メスを平成29年11月にペア形成し、平成31年2月にメス1頭の繁殖に成功している。令和元年10月には希少動物であるスマトラトラの繁殖に成功し、北海道大学と連携して人工授精に取り組んできたホッキョクグマについては、令和4年11月に成育には至らなかったが、2頭の繁殖に成功している。

さらに、平成30年に開始した東北3園アフリカゾウ繁殖プロジェクトでは、秋田市大森山動物園とメスのアフリカゾウを交換し、北海道大学、北里大学、岐阜大学と連携して繁殖に向けた研究を進めている。

(2) 環境教育事業

平成19年9月に宮城教育大学と連携協力の覚書を締結し、「動物公園を活用した環境教育プログラム」の作成と活用により、これまで環境教育の機会を増やしてきた。

平成29年7月に供用開始した「ふれあい館」を中心に、動物とそれらを取り巻く環境について楽しみながら学んでもらうための様々な教育プログラムを実施している。また、教科書の単元に合わせた各プログラムを紹介する「学びのガイドブック」を作成し、市内の学校等に配布しているほか、当園のホームページでも学習プログラムを案内しており、今後も引き続き学習施設としての機能を充実させていく。

(3) マダガスカル関連事業

平成 20 年 5 月、マダガスカル共和国のチンバザザ動植物公園と協力協定を締結し、同国固有の動物種の保護、保全を目指している。

平成 28 年度から令和元年度まで JICA 草の根技術協力事業を活用して職員や専門家の相互交流を行い、飼育技術及び獣医療技術の移転や環境教育プログラム作成などの啓発活動を実施した。今後も引き続き同国の希少動物の保護・保全に協力していく。

(4) 普及啓発事業

今までの動物園は、世界中の珍しい動物を集め見せることに主眼が置かれていた。

現在、動物園における社会的役割は、単に珍しい動物を見せるのみではなく、動物を通して環境や命について考えてもらう場となってきていることも踏まえ、各種イベント等の開催により動物公園の魅力アップを図っている。

(令和 5 年度実施予定のイベント等)

- 1 有料えさやり体験（モルモット、アフリカゾウ、ニホンザル、ヤギ）
- 2 ふれあい事業（ウサギ、モルモット、ヤギ、ヒツジ、フリーフライト観察等）
- 3 ゴールデンウィーク期間事業（ふれあい広場、動物のえさやり体験等）
- 4 動物のおはなし
- 5 サマースクール（小学生の飼育体験）
- 6 夏休み親子体験教室
- 7 アフリカゾウの鼻実験
- 8 ホッキョクグマに氷のプレゼント
- 9 ナイトゾージアム 2023（夜間開園）
- 10 ドリームナイト・アット・ザ・ズー
- 11 写真コンクール、作文コンクール、写生大会
- 12 動物感謝祭
- 13 開園記念日イベント
- 14 八木山フェスタ（八木山ベニーランド、東北工業大学、八木山市民センター、東北放送との共催事業）
- 15 マダガスカルデーイベント
- 16 動物園セミナー
- 17 教員向け動物園活用セミナー
- 18 正月臨時開園イベント
- 19 各種実習・職場訪問等
- 20 学習プログラム